

令和3年度 事業報告

I 概要

今年度も「新型コロナウイルス感染症」が世の中を席卷する一年でした。夏の第5波、冬の新種オミクロン株による第6波が今も猛威をふるっています。感染者数は、畏怖をもって恐れられた前年度よりはるかに増加しているものの、「慣れ」と「ワクチン接種」の浸透により緊張感もやわらぎ、「三密」の言葉さえ懐かしくなっています。少しずつ平常に戻りつつあるようですが、この状況が定着し何事につけ消極的になったようで、四日市市シルバー人材センター（以下「当センター」という。）にとっては、むしろ逆風であったように感じられました。発注先に変動はあったものの、「契約額」への影響は軽微でありましたが、「入会者数」と「就業者数」の低下は、年度を通じ好転することがありませんでした。当センターは、このような状況下においても、「感染防止」に最大限の注意を払ったうえで、「出来ること」「どうすれば出来るか」をしっかりと見極め、「生きがいと地域ニーズを結ぶ組織」を目指すという方針のもと、事業計画の三つの目標値の達成に強いこだわりをもって運営してまいりました。

また、年度を通じ、シルバー人材センターの理念「自主・自立・共働・共助」を遵守した業務運営を心掛け、第4次中期計画や令和3年度事業計画に基づき、理事会、各部会・委員会に諮りながら事業を進めました。

項目	目標値	実績
会員数	1,535人	1,358人
契約金額	794百万円	827百万円
就業率	86.0%	89.8%

今年度の目標値に対して「契約金額」と「就業率」は、目標を達成することができましたが、「契約金額」自体は僅かですが前年を下回りましたし、「就業率」のアップは分母となる会員数が減少したことによるもので、手放しでは喜べません。一方、「会員数」は、大幅に未達となりました。また、4年目となる第4次中期計画の目標値に対しては、「契約金額」は大幅（約70百万円）に上回っていますが、「会員数」と「就業率」は未達で、最大の課題とした「会員数」は、目標値を大幅（約300人）に下回りました。

令和3年度の主な取り組みは、次のとおりです。

(1) 会員の拡大について

- ① 定例会入会説明会は、感染拡大防止のため会場を借りられなかった9月に1回だけ中止にしましたが、ほぼ予定どおり第2水曜日と第4水曜日（あさけプラザ）の月2回実施しました。年間の定例会入会説明会参加者は235名と前年度に比べ79名増加しましたが、一方でハローワーク経由の方を中心としたサテライトオフィスでの随時入会説明実施者が前年度の36名から6名へと大幅に減少し、センターでの随時入会説明実施者も6名と半減しました。関心を持ってシルバーの扉をノックされた方は全体で255名と35名増加したものの実際に入会されたのは143名と17名の減少となりました。
- ② 三重県シルバー人材センター連合会主催の「育児体験講習」と「剪定体験講習」では、参加者同士が親しくなり、相談したり、声を掛け合ったりすることで入会に繋がりました。
- ③ 女性部主催の「茶話会形式による女性限定入会説明会」は、コロナウイルス感染拡大のため開催できる状況にはならず、残念ながら実施できませんでした。
- ④ 入会説明会終了後、業務課員が積極的に参加者とコミュニケーションをとることで、意向の聴取と提案がその場で進み、入会手続き、マッチングとスムーズに繋がりました。

(2) 就業機会の確保について

- ① 公共運動施設の受付の仕事は男性限定でしたが、パソコンの操作が懸案となり、前年度から女性の就業をスポーツ協会と協議し、年度当初より実行され定着しました。
- ② IT系の発注先より女性限定で派遣依頼を受けていましたが、男性で先方の要望に応じられる会員の採用を提案したところ、新規の職種を提示、面接に応じていただきました。発注先企業とセンターの両担当者の日常のコミュニケーションが大切であることを示した好事例でした。

- ③ 前年度に続き、僅かとはいえ民間企業からの仕事が減りました。新規の民間企業の仕事を獲得するために四日市商工会議所の会員事業所(約4,000社)向けの広報誌にチラシの折込をしました。コロナ感染の第5波が終息に向かった秋口を中心に計4回実施したところ、前年度の2倍となる30社から申し出がありました。
- ④ ハローワークのイベントで、就業創出委員会の委員が参加企業の担当者と面談したことで、仕事の発注に繋がり、センターのマッチング担当者と連携して契約締結となりました。

(3) 安全・適正就業の推進について

- ① 前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止で人の集まる行事は、中止ないしは縮小しましたが、安全委員会は、パトロール、各種講習会、安全標語の募集等ほぼ例年通り実施しました。また、健康診査の受診促進にも努めました。しかし、残念ながら刈払機の飛石事故が14件と多発、全部で38件の事故が発生し、内1件が重篤事故となりました。
- ② 事故報告があると業務課長が即刻自分の目で現場を確認し、謝罪したうえで原因を追究し、「速報 安全就業だより」を作成し、再発防止に努めました。
- ③ 刈払機安全取扱講習会を外部講師を招いて3回(内連合会主催1回)実施しました。安全就業で全国表彰を受賞された松阪市SCを拡大安全委員会に招き、独自の取組(主に刈払機の事故対策)について講演と意見交換をお願いしました。従前より遅々として進展しなかった「二枚歯の刈払機導入」の機運が一気に進んだ転換点となりました。
- ④ 防石ネットとスタンドを新しく作りました。利便性等、使用者の意見を反映した物となりました。
- ⑤ 常に就業状況をチェックし、働き方が請負あるいは派遣に合致しているか検討しました。前年度に引き続き派遣先に対しては、総務課が「働き方改革」の一環として「同一労働、同一賃金」の視点で発注先のチェックをしました。

(4) 地域活動の充実について

- ① ブロック会議に事務局長・両次長が担当ブロックを分担して参加し、当センターの運営状況や課題を共有化するとともに、各地区の状況、課題等について情報交換しました。
- ② 班長会議を開催し、ブロック会議での議論を各地区で共有化するとともに、地区内の状況、課題を話し合い、会員の拡大に向けて会員間の連携強化に努めました。
- ③ 地区長・班長全体会議を、新型コロナウイルス感染対策として地区長だけの出席に限定した「地区長懇談会」としました。

(5) 情報発信の強化について

- ① 広報誌「虹の橋」(年2回)、「センターだより」(年3回)を会員向けに発行しました。また、「虹の橋」はホームページからでも見れるので当センターの活動をより多くの人に知ってもらえます。
- ② 市役所を通じたPRとして、市の広報誌で入会説明会・講習会等の案内をしました。また、本庁と23か所の地区市民センターの窓口にPRが入った封筒を提供するとともに、パンフレットスタンドを安定的に活用させていただきました。
- ③ 「四日市ホームニュース」で月に1回(第二土曜日)定列入会説明会の案内をしました。今年度も新型コロナウイルス感染対策として個別対応を強調する文面にしました。また、年2回発行の四日市市老人クラブ連合会の機関紙「四老連いきいきだより」にも引き続き広告を掲載しました。
- ④ 車に貼るマグネットシートのデザインをアメリカンPOP調に刷新しました。センターの車はもちろんのこと、会員個人の車にも貼っていただき、PRをしていただきました。
- ⑤ JRのサテライトオフィスで同好会活動と女性部の活動を行い、駅利用者には練習や活動をガラス越しに見ていただくことでシルバーのPRをしました。
- ⑥ 前年度末に作成した2種類のPR映像は入会説明会、JRサテライトオフィスでの駅利用者向けモニター、ホームページのトップ画面でフルに活用しました。

(6) 情報収集の強化について

① 当センターのことを職員・会員がよく知ること。

全国で1,335あるセンターでのランキングを前年との対比で示すことで、当センターのポジションと全国の趨勢を知ることができます。令和2年度の会員数は、全国89位(横這い)、契約金額は全国54位(11ランクアップ)でした。会員数上位100センターの中で、会員数が増加したのは2割弱、契約金額上位100センターの中で、契約金額が増加したのは僅か6センターと、両方とも大半のセンターが減少しています。当センター会員の就業先がコロナの影響を大きく受ける業種ではなかったことと、四日市市の経済力の強さに助けられたことを、機会あるごとに職員と会員に説明し状況を理解してもらいました。今年度は、「会員数」・「契約金額」共にコロナの影響を受けたようで、全国の結果が公表されたら対比して趨勢を把握したいと思います。

② 会員のことを職員がよく知ること。

前年度に引き続き、「会員状況調査」を実施しました。登録内容の変更に加え、就業状況あるいは就業不可の理由等の把握と、今年度導入した「ショートメールサービス」に対する認知度、それに伴う携帯端末の利用状況を調査しました。

③ 他のセンターのことをよく知ること。

今年度も感染防止のため、他のSCに行くことも、また、他のSCが来ることも全てが中止となりました。しかし、県内のSCはもとより、過去に視察研修に行った、またはこれから視察研修に来る予定だった県外のSCとも継続して電話で情報交換をしました。事務局の態勢が話題となることが多く、他SCの長期的な構想に注目しました。実際に訪問した都市部のSCでは若い職員が当然のように活躍していました。県内でも同様の動きが出てきましたので、採用・育成に戸惑いはあったものの、今般、熟練職員の退職を機に20歳代職員の採用を決めました。懸案だった長期的な視点での人事構想に一步前進することができたのは情報交換の賜物だと思います。

令和3年度の取り組みを通して、次のことが課題になってきました。

① 会員数が減少傾向となりました。

一貫して会員拡大を目指して活動をしてきました。過去5年間は増減を繰り返しましたが、会員数は1,400名超を維持していました。しかし、今年度は大幅に減少し1,300名台半ばになりました。2年目に入ったコロナ禍が減少要因の一端であることは簡単に想像できますが、それだけではないようでした。一つは入会説明会に参加される動機の変化です。動機が、単なる仕事を探すための選択肢の一つにしか過ぎない人が散見され、当然のことながら、すぐに出来る仕事が無ければ入会もしませんでした。また、入会されたとしても同時並行で探していた仕事が決まれば即座に退会されました。二つ目は求職行動の変化です。ハローワーク経由の人が大幅に減少しました。ハローワークに高齢者向けの仕事が無いのか、それとも高齢者の求職意欲が低下してるのか原因を見極めなければなりません。二つの変化への対応が課題となりました。

② 就業者数が連続して減少しました。

契約額だけを見ると順調に推移してきましたが、就業者数が3年間で約50名減少しています。特に民間での減少が目につきます。長引くコロナ禍に景況感の悪化が多業種に拡がり、発注先がコストの見直しをした結果であることは十分に考えられます。しかし、コストの面だけではなく、発注先の期待に応えられなかったケースもあったのではないかと思います。高齢者だからということで、遠慮されて就業者への不満を口にされることは滅多にありません。こちらから発注先の思いを汲み取る動きが出来なかったことが課題として残りました。

③ コロナ禍で知らないうちに後退したものはものはないでしょうか。

発注先・会員とのコミュニケーションが知らず知らずのうちに減ってしまったのではないのでしょうか。面談は、「悪」との考えを口実にして、消極的な行動を自ら正当化してきたように思います。事業計画で管理者の発注先への訪問を予定していましたが、全然実行できず、また訪問以外の手段を講じることも出来なかったことが課題となりました。

これらの課題に対処するために、次年度も引続き新型コロナウイルス感染防止を最大の課題としうえて、『個々の会員に見合った仕事の充実』と、『発注先と会員の声を聞く組織』を主要なテーマとして事業に取り組んでいく方針です。そのためには、組織に安定と活性化が必要です。「しっかりした会員組織・事務局」「明るく元気な会員と事務局職員」であることが求められます。

令和3年度の主な実績は次のとおりです。

項 目			令和3年度	令和2年度	対前年度比 (%)	
会員数	男 性 (人)		921	945	97.5	
	女 性 (人)		437	466	93.8	
	計 (3月31日現在)		1,358	1,411	96.2	
就 業 状 況	受託件数 (件)	請負・委任	公 共 市 役 所	510	489	104.3
			公 共 そ の 他	249	270	92.2
			民 間 事 業 所	3,390	3,432	98.8
			一 般 家 庭	7,927	7,918	100.1
			介護保険事業	741	707	104.8
			総合事業(サービスA)	910	939	96.9
			上 記 以 外	6,276	6,272	100.1
			独 自 事 業	6	12	50.0
		小 計	12,082	12,121	99.7	
	派 遣 事 業	443	452	98.0		
	合 計	12,525	12,573	99.6		
	就業実人員 (人)	請 負 ・ 委 任		1,103	1,141	96.7
		派 遣 事 業		117	103	113.6
		合 計		1,220	1,244	98.1
	就 業 延日人員 (人)	請 負 ・ 委 任		132,210	134,137	98.6
派 遣 事 業		12,333	10,827	113.9		
合 計		144,543	144,964	99.7		
就 業 率 (%)			89.8%	88.2%	101.8	
配 分 金 及 び 賃 金 (千 円)			648,185	648,902	99.9	
契 約 金 額 (千円)	請負・委任	公 共 市 役 所	249,003	248,734	100.1	
		公 共 そ の 他	129,612	130,954	99.0	
		民 間 事 業 所	226,584	237,590	95.4	
		一 般 家 庭	146,227	144,505	101.2	
		介護保険事業	17,763	17,029	104.3	
		総合事業(サービスA)	6,588	6,753	97.6	
		上 記 以 外	121,876	120,723	101.0	
		独 自 事 業	102	153	66.7	
	小 計	751,528	761,936	98.6		
	派 遣 事 業	75,496	67,353	112.1		
合 計			827,024	829,289	99.7	

II 主な活動状況

1 会員の拡大

(1) 会員の入・退会

① 入会説明会

(単位:人)

説明会の種別	参加者数	当月入会者数
センターでの入会説明会	143	72
あさけプラザでの入会説明会	92	47
地域入会説明会	—	—
随時入会説明会	7	4
育児就業体験講習	3	2
剪定体験講習	4	0
JRサテライトオフィス	6	6
女性部主催の「おしゃべり会」	—	—
合計	255	131

② 会員数の推移

(単位:人)

年度	説明会参加者	入会者	退会者	年度末会員数
平成29年度	244	159	175	1,435
平成30年度	281	181	151	1,465
令和元年度	265	170	201	1,434
令和2年度	220	160	183	1,411
令和3年度	255	143	196	1,358

(2) 会員の資質向上

① 新規入会者研修を開催し、接遇マナー・各種ハラスメント・安全就業について注意喚起をしました。

(単位:人)

開催日	参加者数
4月23日(金)	9
6月25日(金)	25
8月23日(月)	17
10月29日(金)	13
12月20日(月)	14
令和4年 2月21日(月)	12
合計	90

2 就業機会の確保

(1) 会員状況調査票により登録データの更新と就業の現況等を調査

調査対象	対象者数(人)	回答者数(人)	回収率
入会して1年未満の会員を除くすべての会員	1,245	940	75.5%

(2) 独自事業(パソコン教室)の推進

開催回数	5
------	---

(3) 高齢者活躍人材確保育成事業

公益社団法人三重県シルバー人材センター連合会が実施する技能講習と就業体験を、会員の拡大に活用しました。

高齢者活躍人材確保育成事業 技能講習・就業体験・セミナー (市内開催分)		
講習名	実施日	受講者数(人)
育児のおしごと体験講習	11月30日～12月3日	4
剪定就業体験	1月21日	7
合計		11

3 安全適正就業の推進

(1) 安全委員会の活動

- ① 重篤事故が1件発生しましたので、現地確認・発生原因・今後の対応について十分な意見交換をし、再発防止を訴えました。
- ② 安全就業啓発事業として、会員から安全標語を募集し、優秀作品を広報誌で発表しました。応募が82点あり、安全委員会で最優秀作品1点、優秀作品2点、入選3点を選び、最優秀作品はセンターや公共施設の入り口に掲示した他、就業報告書等に印刷し会員への安全啓発に利用しました。

最優秀作品 危険です！「油断」「過信」が事故招く！「基本に戻って」事故防止！

- ③ 日常的に仕事で自動車の運転をされる人12名を対象に四日市自動車学校で安全運転講習をしました。安全性テストの診断結果により自分の運転を見直してもらいました。
- ④ 平日の夜間と土日祝祭日の緊急連絡先を、広報誌にて継続的に会員に通知しました。4年が経過し、「緊急」の意図が理解されてきました。複数の受電態勢にする必要があります。

⑤ ヒヤリ・ハット推進状況

項目	令和3年度	令和2年度
体験事例報告件数	—	9

⑥ 事故の発生状況

(単位:件)

項目	年度	令和3年度	令和2年度
傷害事故		16	17
	住居と就業場所との移動中	3	2
	就 業 中	13	15
賠償事故		18	17
	草刈機の飛び石等	14	11
	そ の 他	4	6
車両事故		4	6
合 計		38	40

(2) 健康づくりの推進

- ① 会員の健康への自覚を高め、健康診断受診を促進するため、受診の有無をセンターに報告する取り組みを本年度も行いました。

項 目	令和3年度	令和2年度
送 付 数	1,400	1,436
回 答 数	636	585
回 収 率	45.4%	40.7%

4 就業能力の向上

職群班ごとにテーマを決めて取り組んだ研修の実施状況は次のとおりでした。

職 群 班	研 修 内 容
生活支援	提供するサービスの質を向上するため、「生活110番事業」と連携して生活支援サービス班長会議を2ヶ月に1回開催しました。毎年参加して意識の向上を図ってきた除草班の全体会議が再開されましたので参加しました。
介 護	訪問介護(介護保険)事業では、要介護、要支援状態にある高齢者に対して適切な訪問介護を提供できるよう、介護ヘルパーリーダー会議とヘルパー勉強会を開催しました。今年度の勉強会は「ヘルパーが出来る医療除外行為」と講師を招いた「知っておきたい医療と福祉の現状」等、年4回の勉強会を行いました。
子 育 て	月に1回保護者も交えて「ピッコロ調整会議」を開催し、困ったことについて共に解決策を話し合い、知識・技能の向上を図りました。「育児就業体験講習」を当センターで開催し、受講された4名のうち2名が入会されました。
除 草	技能向上と安全作業の徹底を図るため、外部講師による「刈払機安全取扱講習会」を3回実施し、41名が受講しました。

5 普及啓発の推進

新型コロナウイルス感染防止のため、前年度と同様ほとんどの活動を中止しました。

啓発活動	実施日	場所	参加者数
エキサイト四日市・バザールへの出店およびパンフレットの配布	中止	諏訪新道周辺	—
春の全国交通安全運動の啓発活動でパンフレットを配布	中止	イオン四日市尾平店、四日市北店の店外	—
大四日市まつりの「おどりフェスタ」へ参加	中止	三滝通り周辺	—
大四日市まつり後の清掃ボランティア	中止	諏訪新道周辺	—
秋の全国交通安全運動の啓発活動でパンフレットを配布	中止	イオン四日市尾平店、四日市北店の店外	—
三重県シルバーの日	9月1日～12月24日	各地区5ヶ所	115
地域ボランティア	随時	2ヶ所	102
清掃ボランティア	12月9日	近鉄四日市駅周辺	123
三シ連普及啓発活動	中止	日永カヨーショッピングセンター	—
清掃ボランティア	3月10日	南部丘陵公園	81

6 財政基盤の確立等

法人の運営状況を詳らかにするため、予算の執行状況を毎月理事会に報告するとともに、定款の規定に基づき理事長・副理事長・常務理事の職務執行状況を理事会に報告しました。

市に当センターの経営状況等を説明し、補助金の確保にも努めました。

7 組織の強化等

(1) 地域班活動の充実

今年度も、新型コロナウイルス感染防止のためブロック会議・班長会議の開催が制限されましたが、当センターの運営状況を伝えるとともに、会員拡大への協力依頼、地域の課題整理などの取り組みを進めました。

項 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度
ブロック会議	2	7	11
班 長 会 議	36	39	61

(2) その他の取り組み

今年度も新型コロナウイルス感染防止がすべてに優先した1年間ではありましたが、出来る範囲で、また、出来る方法で理事会をはじめ各部会・委員会、女性部の活動の充実に取り組むとともに、会員互助会と連携を図り、会員拡大等当センター発展の視点を共有した活動を進めました。また、事務局は、長期的視点での組織強化のため、20歳台の正職員の採用を決めました。

事業報告の附属明細書について

令和3年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条3項に規定する、附属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。